

## 2, 2'-thiobis (4, 6-dichlorophenol) (Bitin, Bithionol, Actamer) による条虫駆虫の 2 症例

藤 森 一 平 長 田 信  
野 村 清 通 高 橋 正 人

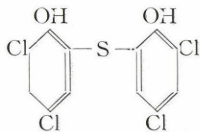
川崎市立病院内科 (指導: 勝正孝院長)

(1965 年 8 月 5 日受領)

### はじめに

条虫類の駆虫には、古くから綿馬エキス、チモール、あるいはアタブリンなどが使用されてきたが、これらはいずれも駆虫効果において、または副作用の点から、必ずしも満足すべきものとはいえない。

ここに用いた 2, 2'-thiobis (4, 6-dichlorophenol) は第 1 図に示す構造式をもち、商品名は Bitin, Bithionol, Actamer などと呼ばれる。当初は皮膚消毒剤として、



第 1 図 2, 2'-thiobis (4, 6-dichlorophenol) (Bitin, Bithionol, Actamer) の構造

石鹼、化粧品に添加して使用されていたが、やがて駆虫作用のあることが発見された。まず家畜の条虫 (沢田, 1957), 肝蛭 (上野, 1959) に応用され、次いで人の肺吸虫に著効のあることが認められた (横川ら, 1961)。横川ら (1962) は本剤を初めて、無鉤条虫症 6 例に投与して、全例完全に駆虫し得たとしている。

われわれは無鉤条虫のみならず、広節裂頭条虫症の 1 例においても駆虫に成功したので報告する。

### 症例報告

症例 1, 増○和○, 59 歳, ♂ 会社員

初診: 昭和 39 年 8 月 16 日

主訴: 1) 下痢 (1 日 2 ~ 3 行)

2) 片節の排出

病名: 広節裂頭条虫症

感染の機会: 昭和 39 年 5 月 20 日, 東京にてマス (産地不詳) の刺身を摂取した。

初診までの経過: 昭和 39 年 7 月 20 日初めて片節の排出に気づく, その頃より下痢気味 (1 日 2 ~ 3 行) になり, 糞便が生臭くなったという。

既往症: 特にない。

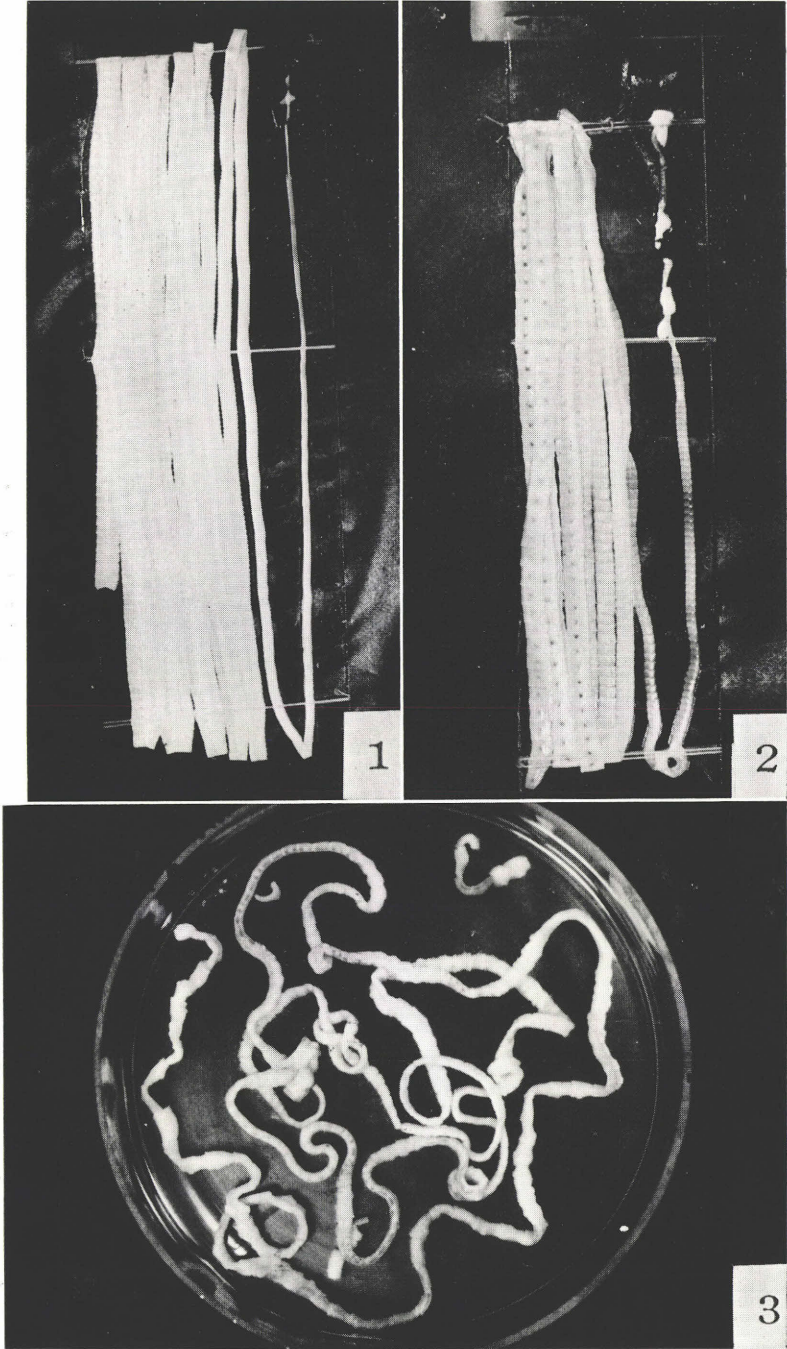
現症: 体格, 栄養は中等, 体温 36.8°C, 脈拍 60, 整, 眼結膜に貧血, 黄疸はない。心音は純, 胸部に異常濁音なく, ラ音を聴取しない。腹部は軽度に膨満, 肝, 脾, 腎は触れない。下腿に浮腫なく, 腱反射正常, 各部のリンパ節の腫脹はない。

諸検査成績は第 1 表の通りであつて, 糞便に広節裂頭

第 1 表 検査成績 (症例 1)

血液		白血球百分率	
赤血球	477 万	好酸球	5 %
色素量	13.1 g/dl	好中球	36
色素係数	0.9	リンパ球	57
白血球数	6800	単球	2
赤血球の形状, 正常			
尿		糞便	
蛋白	(-)	潜血	(-)
糖	(-)	広節裂頭	
ビリルビン	(-)	条虫卵	(卅)
ウロビリリン	(-)		
ウロビリノーゲン	(±)		
肝機能		血清蛋白	
黄疸指数	4	TP	6.0 g/dl
BSP	0 %	A/G	2.1
コレステロール	280 mg/dl		
CCF	(-)	血沈	4 mm
CoR	1 (5)		
ZTT	4	CRP	(-)
β-リポ蛋白	2.0	LFP	(-)
GOT	15	ASLO	12 Todd
GPT	10		

条虫卵陽性であるが, 本症に特有とされる悪性貧血の徴はみられない。



写 真 説 明

- 1~2. 駆虫の結果排出された広節裂頭条虫 2 隻
- 3. 駆虫の結果排出された無鉤条虫 1 隻

駆虫の方法：

1) 前処置

a. 駆虫2日前より無繊維食とする（頭節の発見を容易にするため）。

b. 前日の夕食は禁止する（腸内容を少くし、薬剤の濃度を高め、かつ便の検査を容易にするため、したがって茶、ジュース、牛乳などは適宜摂らせた）。

2) 駆虫

a. 駆虫当日の朝食は禁止し、本剤 3200 mg (60 mg/kg) を2分し、30分間隔で投与。

b. 3時間後に下剤（硫酸マグネシウム 30 gm）を投与。

3) 検査

48時間後まで蓄便して、虫体、頭節を検査した。

駆虫成績：広節裂頭条虫2隻（長さ5.2m, (写真1)

1.5m(写真2))を頭節と共に得た。

駆虫後10カ月に至つても片節の再排出をみていない。

副作用：服用時軽度の腹部熱感を訴えたのみで、肝、腎などの障害は起らなかつた。

症例2, 服〇三〇, 38歳, ♂ 会社員

初診：昭和39年10月6日

主訴：片節の排出

病名：無鉤条虫症

感染の機会：昭和37年11月より同38年8月まで西ドイツに滞在し、牛肉を多食した。

初診までの経過：昭和39年8月中旬初めて片節の排出に気づき、その後たびたび片節の排出があつたが、便通その他に異常はなかつた。

既往症：特にない。

現症：体格、栄養は中等、体温36.9°C、脈拍80、整、眼結膜に貧血、黄疸はない。心音は純、胸部に異常濁音なく、ラ音を聴取しない。腹部は異常なく、肝、脾、腎は触れない。下腿に浮腫なく、腱反射正常、各部のリンパ節の腫脹はない。

諸検査成績は第2表の通りであつて、好酸球が6%と、やや増多している外には異常が認められない。

駆虫の方法と結果：症例1と同様の方法を取り、本剤3200 mg (60 mg/kg) を用いた。無鉤条虫1隻(長さ、2m

第2表 検査成績(症例2)

血液		白血球百分率	
赤血球	402万	好酸球	6%
血色素量	14.2g/dl	好中球	64
色素係数	1.1	リンパ球	28
白血球数	7500	単球	2
尿		糞便	
蛋白	(-)	潜血	(-)
糖	(-)	無鉤条虫卵	(-)
ビリルビン	(-)		
ウロビリリン	(-)		
ウロビリノーゲン	(±)		
肝機能		血清蛋白	
黄疸指数	11	TP	7.2g/dl
BSP	0%	A/G	2.1
コレステロール	256mg/dl	血沈	2mm
CCF	(+)		
CoR	3(5)	CRP	(-)
ZTT	8	LFT	(-)
β-リポ蛋白	2.5	ASLO	100Todd
GOT	14		
GPT	8		

写真3)の排虫をみたが、頭節は発見しえなかつた。

副作用は全くなく、片節の再排出は駆虫後8カ月までみられていない。

むすび

1) 2,2'-thiobis (4,6-dichlorophenol) を60 mg/kg 使用して、広節裂頭条虫症、無鉤条虫症の各1例の駆虫に成功し、それぞれ2隻と1隻の虫体の排出をみた。

2) 副作用として、1例に軽度の腹部熱感があつたのみであつて、肝、腎などの障害はみられなかつた。

本論文の要旨は第6回神奈川医学会 総会（昭和39年11月15日、横浜）において発表した。

文 献

- 1) 沢田勇(1957)：アクタマーによる鶏条虫駆虫試験。寄生虫誌, 6, 8-11.
- 2) 上野計(1959)：ピチンによる牛肝蛭の駆虫試験。第48回日本獣医学会口演.
- 3) 横川宗雄ら(1961)：肺吸虫の化学療法に関する研究。治療, 43, 917-924.
- 4) 横川宗雄ら(1962)：Bithionol による無鉤条虫の駆虫成績。(附) 検便及びセロファンテープ肛囲検査法による虫卵検査について。寄生虫誌, 11, 39-44.

THE TREATMENT OF *DIPHYLLOBOTHRIUM LATUM* AND *TAENIA SAGINATA* WITH 2,2' -THIOBIS (4,6-DICHLOROPHENOL)  
(BITIN, BITHIONOL, ACTAMER)

IPPEI FUJIMORI, MAKOTO OSADA, KIYOMICHI NOMURA  
& MASATO TAKAHASHI

(Department of Internal Medicine, Kawasaki City Hospital, Kawasaki, Japan)

It is well known that 2,2'-thiobis (4,6-dichlorophenol) is quite effective for the treatment of human paragonimiasis. Taeniasis saginata was firstly treated with 2,2'-thiobis (4,6-dichlorophenol) by Yokogawa *et al.* in 1962.

The present study was designed to know anthelmintic effect of the drug for two cases of *Diphyllobothrium latum* and *Taenia saginata* infection. The results obtained were as follows.

- 1) 60 mg/kg of 2,2'-thiobis (4,6-dichlorophenol) divided into 2 "takes" at 30 minutes interval was administered orally to the empty stomach. The purge of magnesium sulphate was given 3 hours after the last dose of the drug.
- 2) One case discharged 2 strobila (with a scolex) of *D. latum* and another case 1 strobilla of *T. saginata* within 48 hours after medication.
- 3) The follow-up study revealed that no further segments were found during the 8-10 months.
- 4) Mild abdominal heat-feeling in a case was only untoward reaction attributable to this drug.

会 記

第35回 日本寄生虫学会総会開催予告 (2)

第35回 日本寄生虫学会総会につきましては、すでに本誌前号において会期、会場などの予定をお知らせしましたが、その後決定された二、三の事項をつけ加え再度お知らせ申し上げます。

- 1) 会期：昭和41年4月30日(土)、5月1日(日)
- 2) 会場：新潟大学教育学部講堂
- 3) 総会会長：新潟大学医学部教授 大鶴正満博士
- 4) 特別講演：「日本の寄生虫および衛生動物学の創始期に活躍した人々」(仮題) 森下薫博士
- 5) シンポジウム：「寄生性肉芽腫について」 司会 大鶴正満博士  
講師 5人(予定)

なお、総会の案内書の発送は12月中旬頃になる予定

第35回 日本寄生虫学会総会会長 大鶴正満